

音楽科

圓城寺佐知子・松前良昌

I はじめに

本年度より、広島大学附属東雲小学校・中学校（以下、本校と表記）は『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造」というテーマをもとに実践研究を進めていく。学習指導要領の改訂に向けた文部科学大臣からの諮問文（平成26年11月）には、グローバル化などの大きな社会の変化を踏まえ、求められる人材が変化していることから、汎用的能力を育成する探究的な学習の取り組みについて次のように記されている。

「これらの取り組みに共通しているのは、ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子どもたちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにしていくことが重要であるという視点です。そのために必要な力を子どもたちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させるうえでも、また、子どもたちの学習意欲を高めるうえでも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されています。」（初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について；中央教育審議会より引用）

これらを踏まえて、音楽科のこれまでの授業を振り返ってみたところ、表現分野の授業において従来から協働的問題解決の場面を多く取り入れているのではないかと考えた。本年度は、これまでの実践研究が協働的問題解決の場となっているのかということ表現分野に絞って研究を進めることとする。

これまで、本校では児童・生徒の発達段階、学び方、わかり方の進行に注目して、小学校1～4年生をⅠ期、小学校5年生～中学校1年生をⅡ期、中学校2・3年生をⅢ期と設定して、義務教育で育てる資質や能力を問い直し、9年間の学びがつながる授業づくりのあり方に関する研究を行ってきた。本校音楽科では、低学年から音楽表現活動を重視し、活動を通して、自分の思いや意図を演奏に表す方法の一つひとつ身に付けさせることが重要であると考えている。学年が進むにつれて、身に付けた表現方法を選択し活用できる児童・生徒を育てるために、指導者が適切な場面で適切な支援を行い、身に付けた音楽的表現や技能などを曲のどの部分でどのように利用するかを自ら判断し、演奏に生かすことができるような授業を組み立て、研究を行ってきた。さらには、効果的に音楽的スキルなどが向上する指導法の開発を試み、その有効性についても研究してきた。

昨年度の取り組みとして、Ⅱ期（小学校5年生）において、鑑賞と歌唱を通して沖縄民謡とその他の民謡の特徴の違いに気付くことから楽曲の特徴を生かした表現の工夫をすることができるのではないかと授業仮説の検証を行った。また、Ⅲ期（中学校3年生）の歌唱において、手などによる動作や比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導などの3年間継続した歌唱指導が、生徒に発声方法が定着するのに有効であるのではないかと授業仮説の検証を行った。これらの動作や比喩的表現を用いた指導は、わかりやすくイメージしやすいと考えている生徒が多く、発声指導に効果的であった。

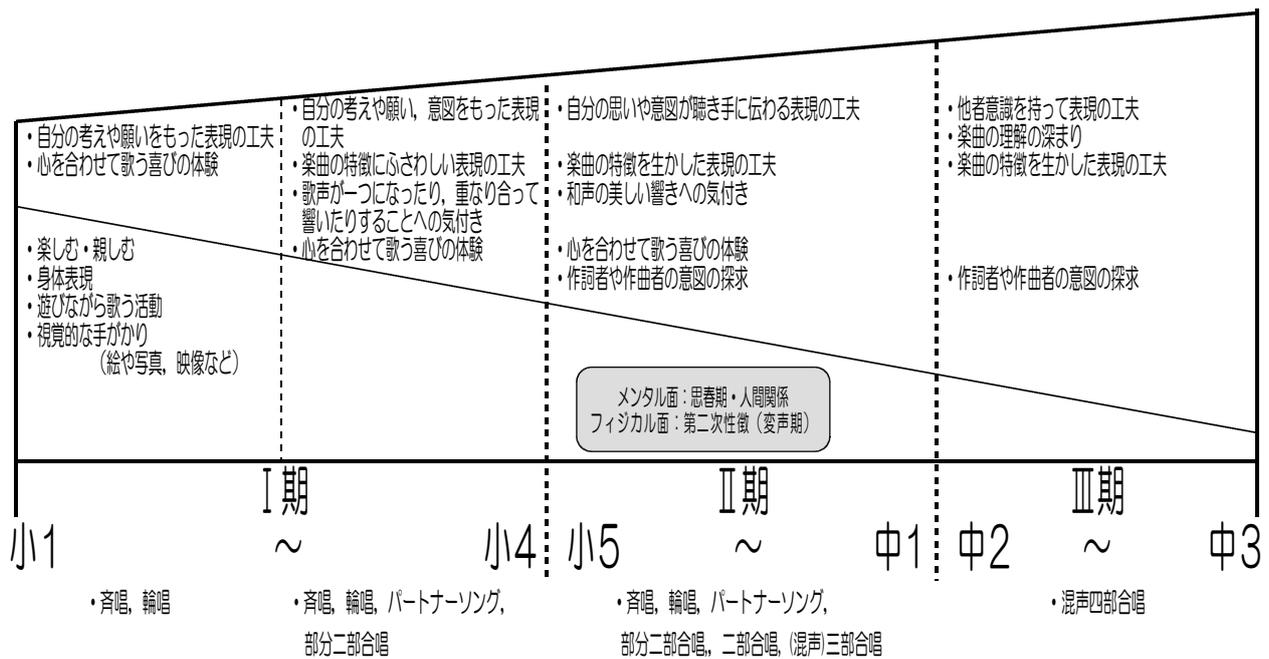


図1 音楽表現でめざす学び文化(歌唱表現の場合)

小学校・中学校それぞれの取り組みをとおして、基礎的な知識・技能を習得するとともに、児童・生徒たち自らが課題を発見し、その解決に向けて主体的に探究し、学びの成果等を表現する場を設けてきた。これは、本年度からのテーマである『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造にも深く関わっているのではないかと推測される。ただし、今年度は研究初年度であり、真の意味で協働的問題解決になっているかどうか、これから研究していきたい。これまでの研究をもとに、協働的問題解決ができる子どもたちを育成するための授業づくりの研究を進めていく。

II 本年度の研究計画

1 研究の目的

『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う音楽科教育の推進を目的とし、授業実践を通して知見を得る。

2 研究の方法

- ① 小学校では、児童にとって身近なものを使って民謡やお囃子を再現して表現することが、我が国の文化及び世界の文化に目を向けるきっかけとして有効であるかを実践を通して試みる。
- ② 中学校では、合唱練習において生徒が自分たちで表現を工夫することが協働的問題解決ではないかと考え、ICT(タブレット端末)を用いることでより効果的な練習ができないかを試みる。

3 研究会当日の授業

① 小学校4年 題材名「お囃子や民謡を楽しんで表現しよう」

民謡の特徴を生かした旋律や太鼓のリズムを各々で考え、つくった音楽のつなぎ方やかけ声の入れ方などを工夫してお囃子をつくり、表現させる。

② 中学校2年 題材名「合唱表現を自分たちで工夫しよう」

歌唱指導において、自ら音程や発声を容易に確認するツールを利用することにより、効果的に音楽的技能を高め、その技能をもとに楽曲に対する自分の思いや意図を豊かに表現させる。